令和２年度 8020 公募研究報告書抄録（採択番号：20-01-01）

研究課題：特定健診質問結果と歯科検診結果および歯科受診行動との関連

研究者：栗田 浩、山田慎一、櫻井精斉

所　属：国立大学法人信州大学医学部歯科口腔外科学教室

【目的】平成 30 年度から特定健診の質問項目に歯科に関連する項目が導入された（質問項目 13:「食事をかんで食べるときの状態はどれにあてはまりますか。」)。そこで本研究の目的は、導入された特定健診質問項目 13 が、その後の歯科受診行動、およびメタボリックシンドローム（METS）の改善につながっているか否かに関して検討することである。

【対象および方法】対象は、2018 年度に長野県安曇野市および塩尻市における国保特定健診・後期高齢者健診（特定健診）を受診した 6,599 名である。2018 および翌 2019 年度の特定健診および歯科健診の結果と国保データベース（KDB）から医療費のデータの収集を行い、特定健診質問項目 13 回答結果と、その後の歯科受診行動、特定健診検査結果の変化との関連について検討を行った。なお特定健診結果の検討にあたっては、治療薬の変更があった者は対象から除外した。

【結果】特定健診質問項目 13 の回答結果は、「なんでもかんで食べることができる」と回答した者は 5,432 名（82.3%)、「歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある」と回答した者は 1,143 名(17.3%)、「ほとんどかめない」と回答した者は 24 名(0.4%)であった。特定健診後の歯科受診率は、「なんでもかんで食べることができる」と回答した者では 42.7%、「歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある」40.7%、「ほとんどかめない」29.2%であった。質問項目 13 回答結果毎に、その後の歯科受診があった群と無かった群で,特定健診結果の変化を比較すると、収縮期血圧値の変化において、「ほとんどかめない」と回答した群で、その後の歯科受診があった群と無かった群の間に有意差を認めた（t-検定、$p<0.05$)。すなわち、歯科受診があった群では収縮期血圧が平均で 11.0 mmHg 減少したのに対し、歯科受診が無かった群では平均で 8.8 mmHg 上昇していた。その他、拡張期血圧、中性脂肪、HDL コレステロール、HbA1c、eGFR に関しては、歯科受診の有無で検査値の変化に統計学的に有意な差は認めなかった。

【考察およびまとめ】これまでの研究で、質問項目 13 は、歯および口腔内の状態を反映していることが示されている。本研究の結果から、質問項目 13 で問題があるとされた者は、歯科に関する関心も薄く、適切な歯科受診にも結びついていないことが示された。しかしながら、「ほとんどかめない」と回答した者が歯科受診後には収縮期血圧値の改善が得られてたことから、質問項目 13 を用いることにより、歯科保健指導や歯科勧奨を進める必要性や、そのことにより METS の改善効果にも結びつく可能性が示された。